



TITLE:

新しい情報検索サービスの提供開始(NACSIS - IR)

AUTHOR(S):

CITATION:

新しい情報検索サービスの提供開始(NACSIS - IR). 静脩 1987, 24(1-2): 8-9

ISSUE DATE:

1987-10

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/36982>

RIGHT:

買得田畚導掌貢物奴婢都案」「奴婢放売・典当文記、綿紬壓関係資料」と名づけられた4冊のノートがある。これらは、現在でも、閲覧はなかなか困難なもので、おそらく安氏の熱意にうごかされて、写真撮影を許されたものであろう。安氏は、これらの土地売買文書約250枚に、『朝鮮土地調査事業報告書』や和田一郎『朝鮮土地・地稅制度調査報告書』などに収録された土地売買文書約170枚を加えて研究を進められ、1910年から1918年にかけて行われた土地調査事業の前提としての土地

所有の性格を明らかにしようとしたが、惜しくも、その研究の端緒で倒れたのであった。生前にまとめられた唯一の論文「田畚典当・放売文記の研究」は、遺稿集『朝鮮社会の構造と日本帝国主義』に収められている。

この簡単な紹介を終るにあたり、私は、安秉珪文庫が多くの人々によって利用され、こころざし半ばにして倒れた安氏の研究が引きつがれ、発展されることを、こころから願わずにはおられない。

《ニュース》

附属図書館が理工学系外国雑誌センター館に指定される

昭和52年度から逐次、特定の分野（理工学、医学・生物学、農学、昭和61年度から人文・社会科学）ごとに外国雑誌センター館が指定され、外国刊行学術雑誌の国内未収集誌を網羅的に収集してきました。この事業の大きな目的は、国内の研究者が必要とする文献を諸外国の専門機関に依存することなく、国内で網羅的に収集し、迅速な提供を行うことにより、研究者の活動を支援することにあります。

理工学分野では、この事業の初年度に東京工業大学附属図書館がセンター館に指定され、収集は勿論のこと、サービス面においても積極的な活動を行ってきました。

理工学分野の一段の整備充実を図るため、本年6月2日付で、文部省から本学附属図書館が理工学分野のセンター館に追加指定されました。資料の収集方針、その他センター館の活動に関することは、関係部局選出の附属図書館商議員の助言を受け文部省、東工大図書館及び他分野センター館とも密接な調整をはかりながら、進められ、62年度の購入誌として484タイトルを発注したところです。現在、鋭意63年版の購入資料の選定準備を行っています。

新しい情報検索サービスの提供開始

＜NACSIS-IR＞

学術情報センターでは、昭和62年4月から、情報検索サービス（NACSIS-IR：National Center for Science Information System-Information Retrieval Service）を開始しました。このサービスは学術情報センターの内外で作成される様々な学術情報データベースを導入し、研究者の学術研究活動、図書館における参考調査活動の支援を目的としています。本学における利用資格者は、教官、大学院学生、研究生、文部省科学研究費補助金の研究代表者及び分担者、図書館職員等、その他部局長が適当と認めた者です。また支払は校費のほか私費も認められます。接続方法にはオンライン端末機を①公衆電話回線又は第2種パケット交換網を通じて直接か、あるいは②各大学の情報処理センターや大型計算機センターを通じての二種類があります。すなわち、研究室等の端末からの直接のアクセスも可能です。学内の図書館（室）による代行検索サービス（利用者に代って図書館員が検索を行う。）も認められており、本学では現在、附属図書館（参考調査掛）と農学部（学術

データベースの種類	数	接 続 料	ヒット料
二次情報（COMPENDEX等）	8	50円／分	13円／件
MARC（LCMARC等の機械可読目録）	3	30円／回	0
目 録 所 在 情 報	2	30円／回	0

情報掛)がサービスを開始しています。なお、現在のところ両者とも校費による利用に限定されています。利用登録の案内は、附属図書館(参考調査掛)のほか、部局図書室及び大型計算機センター共同利用掛で行っています。

NACSIS 目録システム講習会開催される

近畿北部地区ネットワーク加盟の7大学附属図書館の中で、現在、富士通のシステムを使用してNCと接続済みか、近く接続が内定している4大学からの10名を対象として行われた。FACOM-9450Σ10台を、附属図書館地域共同利用室に仮設し、9月3日に学術情報センター宮澤教授及び村橋事務官による総説の講義が行われたあと、9月8日から11日迄の4日間本学の学術情報センターデータベース研修終了者4名を講師にして、実務指導が行われた。

「遡及入力調査研究室」発足

——科学研究費補助金による試験研究——

現在、学術情報センターを中心として、学術情報システムの整備が急ピッチで進められています。中でも、目録所在情報サービスには、できるだけ多くの情報をとり込む必要があるが、現状では、新たに受入れた資料の入力に追われ、今日までに蓄積された貴重な文献の所蔵情報は、各大学で維持している目録カードによらざるを得ません。これらの所蔵情報を経済的かつ能率的な方法で機械可読形に変換し、共同利用に供することが、このネットワークシステムを完成させるうえで最も解決が急がれている課題の一つです。

国立七大学と学術情報センターでは、各大学の大型計算機センターと協力し、昨年からの遡及変換のための調査研究を行うべく科学研究費補助金の申請を行っていましたが、この度昭和62年度から3年計画で、これが認められました。各大学が分担している本年度の研究事項は以下のとおりです。

- 1) OCRによるデータ変換の研究並びにその変換方法との実際比較。
- 2) 学術情報センター目録システムに整合する、

CD-ROM による分散入力方式の実用化研究。

- 3) 入力フォーマットの比較研究と遡及標準フォーマットの設定。

- 4) サンプルデータベースの比較分析。

このため附属図書館では、9月1日より、整理課内に「遡及入力調査研究室」を設けて、整理課図書館専門員及び職員等をあて、館長直轄の組織とし、大型計算機センター金澤助教授の助言を受けながら、第一歩を踏み出すことになりました。

「京都大学90年展(仮称)」を開催予定

——創設時と明治期の姿を紹介——

京都大学は、去る6月18日で創立90周年を迎えました。

附属図書館では、毎年、一定のテーマを設定して学外者にも公開した展示会を開催しております。

今年の展示会は、さらに100周年に向けての第一年次となる記念すべき年にあたり、京大90年の歴史の中で特に創立前後の動き、勅令とその関係文書の写真による展示、及び明治期の四分科大学など、“明治期の京都大学”をテーマに紹介していく予定です。

この展示会を通じて、本学に関する未発見資料の収集の契機にもなればと期待しております。

開催期間：11月上旬

場 所：附属図書館展示ホール(3階)

総合目録室の利用について

附属図書館では昭和62年9月11日より、1階総合目録室の利用時間を下記のように変更いたしますのでお知らせします。

開館日の月曜日～金曜日：9時～19時

土曜日：9時～15時

工学部図書掛の事務室が1階に移転

新館開館当時から、附属図書館4階北側に位置していた工学部図書掛事務室が、工学部その他の利用者の要望を受けて、8月5日より1階の旧貴重書閲覧室に移転しました。これと同時に、同事務室の複写機も、1階メインカウンター前と地階B下エレベーターホールに1台ずつを移設。これによって一段と利用者の便がはかれることになりました。